

議 事 録

会 議 名	令和6年第2回熱田警察署協議会（定例会）
日 時 ・ 場 所	令和6年6月25日（火） 午後1時30分から午後3時30分までの間 ----- 熱田警察署 講堂
出 席 者	1 委員 村瀬 聡会長 池田 真由美副会長 平賀 眞美子委員 成瀬 真樹委員 鈴木 隆委員 都築 匡子委員 後藤 稔委員 中野 毅委員 以上8名（定数8名） ----- 2 警察署員 竹下署長 渡部副署長 小森警務課長 柳会計課長 大谷生活安全課長 坂口地域課長 二宮刑事課長 丸子刑事課長代理 鈴木交通課長 鈴木警備課長 以上10名 ----- 3 有識者等 なし
諮 問 事 項 等	熱田警察署地域課（交番）に望むこと
答 申 等 の 概 要	1 警察相談ダイヤル（9110）を周知する広報活動 2 地域住民に安心感を与える効果的及び弾力的な交番の運用 3 巡回連絡等を通じた地域の実態把握、情報発信の推進 4 現場対応する警察官のコミュニケーション等能力の向上
そ の 他	次回開催予定 令和6年9月頃

会議の経過及び発言の要旨	
1	警備犬の訓練展示
	警察本部警備部所属の警備犬による治安警備、災害救助等の訓練展示を実施した。
2	会長挨拶
3	署長挨拶
4	各種報告
	(1) 管内の犯罪発生状況（生活安全課長説明）
	(2) 管内の交通事故発生状況（交通課長説明）
5	前回の答申に対する具体的施策の推進状況（警備課長説明）
	(1) 諮問事項
	災害対策について熱田警察署に望むこと
	(2) 答申事項
	ア 行政、地域等関係機関との情報共有、連携強化
	イ 有事に備えて署員及び他機関との実践的な訓練を実施
	ウ 災害発生時のパトロールを中心とした防犯活動の実施
	(3) 推進施策
	ア 答申事項アについて
	(ア) 管内学区主催の防災イベントに参加
	管内学区長や消防団関係者に対し、「警察が行う災害警備活動」
	「自助・公助・共助」についての講話を行ったほか、「災害活動用車両、災害広報用パネル及び災害グッズの展示」「災害対策チェックリストの配布」といった災害対策等の広報を実施した。
	記録者
	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
(イ) 土木事務所等との合同による管内危険箇所の点検	
大雨の際に冠水する危険性のある管内のアンダーパスについて、熱田土木事務所、熱田区役所、熱田消防署との合同による点検を実施し、危険箇所の把握、冠水時の対応要領等について各機関との連携強化を図った。	
イ 答申事項イについて	
(ア) 熱田消防署との合同による水難救助訓練	
熱田消防署が管内の公園において実施した水難救助訓練に、当署警備課員も参加し、ゴムボートを使用した操舟訓練や水難救助資器材の取扱い訓練を行い、災害時における救助能力の向上を図った。	
(イ) 管内小学校で実施された熱田区総合水防訓練に参加	
地域住民に対し、安価で購入できる防災グッズの展示のほか、プールではゴムボートを使用し、災害時を想定した水難救助訓練を体験してもらった。	
(ウ) 当署幹部による管内危険箇所の点検	
警察署長が管内にあるアンダーパス 2 箇所の点検を実施し、災害時における危険箇所の把握に努めた。	
(エ) 当署災害部隊員等を中心とした署内訓練の実施	
随時、署内において災害部隊員等を中心に、ゴムボート組立て訓練、チェーンソー取扱い訓練及び土のう設置訓練等各種災害用資機材の取扱い訓練や震災時初動対応訓練を反復実施し、署員の災害対処能力の向上を図った。	
記録者	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
	ある。
	・ 交番勤務員の負担を減らすためにも、警察相談ダイヤルの利用を多くの人に理解してもらおうとよい。
	・ 若い人たちには、SNSを通じて地域警察の活動内容、緊急性のない110番通報件数、警察相談ダイヤルの利用等を広報するとよい。
委員	・ パトロールをしている交番勤務員の姿を見かけると、非常に安心感がある。
	・ 地域警察の業務は多種多様であり、改めて幅広いと感じた。
	・ 地域住民から、時間的、場所的な警察官のニーズを調査し、地域の特徴に応じた警察官の配置や警戒の強化等をするとうよい。
	・ 警察業務以外への対応は非効率であるので、正しい対応先、問い合わせ先等を、紙媒体、メディア等の各種ツールを使用して広報するとよい。
委員	・ 住民の多数は、自分が住んでいる地区のどこに交番があるかを知っていて、利用する人は少ないと思うが、交番があることに安心を感じているとともに、交番勤務員の活動も伝わっていると思う。
	・ 業務や人員の割り振り等により、空き交番が発生することは、ある程度仕方がないのではないか。
	・ 空き交番対策として、交番に訪れる人が多い日や時間帯等を調査し、結果に基づき交番勤務員が在所するように努めたり、交番に設置してある電話機の手話器を取ると、本署地域課につながることを
	記録者
	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
広報すれば、住民の不安も少しは解消できるのではないか。	
委員	・ 空き交番であっても、交番の電話機で警察官とつながれば、余り困ることはないのではないか。
	・ 警察相談ダイヤルの 9110 を、住民に周知することが非常に重要である。
委員	・ 空き交番は、時代の変化による多種多様な事案対応、人手不足等を補うため、何かを犠牲にしなくてはならないときがあるので、ある程度仕方がないと思う。
	・ 交番という建物があることが、犯罪の抑止力になっているので、その存在感を生かした交番の在り方を考えるとよい。
	・ 交番に警察官がいなくても、何かあったときは110番等の通報で、いち早く警察官が駆け付けてきてくれるのならそれでよい。
	・ 空き交番であっても、交番の電話機で警察官と会話ができれば、安心できると思う。
	・ 愛知県警察のホームページや（旧ツイッター）等で発信されている9110等の様々な警察からの情報を、どのように住民に知らせるかが課題である。
	・ 交番勤務員に業務の負担があるのであれば、時間帯に応じた業務の人員割り振り、地域課以外の課への協力依頼等による仕事の仕分が必要ではないか。
	・ 空き交番には、電話機の代わりに、相手の顔がわかり安心感が得られるタブレット端末を設置するなど、デジタルを駆使した各種警
	記録者 警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
<p>察への通信手段システムを構築することも今後必要ではないか。</p>	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ パトカーが、赤色灯を点けて警らしているのを見かけると、とても安心である。 ・ 地域課員の人数は変わっていないのに、事案対応等に要する人員や時間が増加し続けていることは問題である。 ・ 緊急性のない相談などは、警察相談ダイヤルを利用するよう周知することが大事である。 ・ 巡回連絡の際に、警察相談ダイヤルの利用に関するチラシやカード等の配布と広報が効果的である。 ・ 巡回連絡の際は、居住者確認だけではなく、「何か困りごとはないですか。」と聞いてもらえれば、困りごと等があれば話しやすいし、地域住民とコミュニケーションが図れて、地域の特徴等も把握できると思う。
8 答申	
(1) 警察相談ダイヤル(9 1 1 0)を周知する広報活動	
(2) 地域住民に安心感を与える効果的及び弾力的な交番の運用	
(3) 巡回連絡等を通じた地域の実態把握、情報発信の推進	
(4) 現場対応する警察官のコミュニケーション等能力の向上	
9 その他	
<p>次の開催予定は、令和6年9月頃とする。</p>	
<p>記録者 警務係長</p>	